

乳児出生率が高い国とその理由

熊本県立東稜高等学校

テーマ設定の理由

HAQインデックスとは、質の高い医療を受けられれば予防や治療が可能と考えられる32種類の疾患をリストアップし、各国を総合的に評価したもので、日本の医療は海外から高い評価を受けている。
しかし、乳児出生率が世界で「227位中 215位」と低いための理由はなぜか知りたい。

2018年5月の医学雑誌「ランセット」の「HAQ (Healthcare Access and Quality) インデックス」

ランク	国名
1	アイスランド
2	ノルウェー
3	オランダ
4	ルクセンブルク
5	オーストラリア
...	...
9	イタリア
12	日本
14	カナダ
18	ドイツ
20	フランス
23	イギリス
29	アメリカ

仮説

乳児出生率が低いのは
医療のレベルは関係なく
子どもを産みたいと
考える人が少ないから

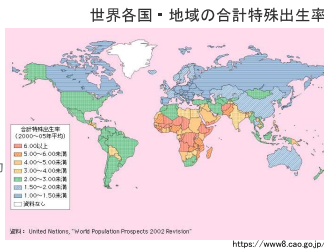
検証方法

1. 世界で乳児出生率が高い(低い)国はどこかを調べる。
2. 調べた国の医療レベルの差を調べる。
3. 乳児出生率が高い(低い)の理由について調べる

結果

出生率が高い国...
・アフリカが多い
・経済的に発展途上である国が多い
・医療の質一低い

出生率が低い国...
・日本を含め、経済的に安定した国が多い
・医療の質一高い



考察① 発展途上国の出生率はなぜ高い？

「子ども」
→ 家族の一員であり、稼ぎ手
→ 豊かな生活をするため、多くの子どもを持つとうとする
→ 医療の質は関係ない

考察② 経済的に安定した国の出生率はなぜ低い？

社会で活躍する場が広がると「結婚して子どもを持つ」以外の道を選択する人が男女問わず多くなる
→ より自分らしい生き方を望む
→ 「子どもを持たない」
→ 「出産適年齢を逃す」ことが身近に

2023年(推定)のG7の合計特殊出生率

順位	国名	出生率
102位	フランス	2.02
137位	アメリカ	1.84
178位	イギリス	1.63
191位	ドイツ	1.58
192位	カナダ	1.57
215位	日本	1.39
222位	イタリア	1.24

出生率が「2」に届かなければ人口減少は食い止められない

フランス...
・家族給付の手厚い支給
・保育の充実
・妊娠・育児の両立支援にも注力

図1 合計特殊出生率の推移(日本・フランス・イギリス・ドイツ・イタリア・スペイン・スウェーデン)

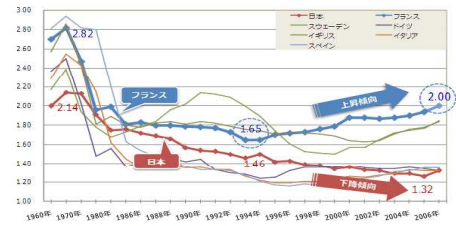
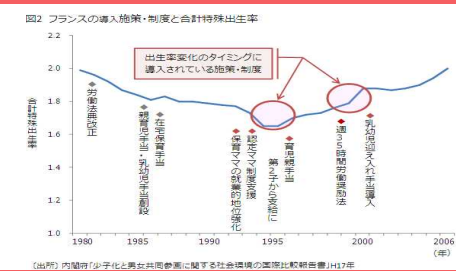


図2 フランスの導入施策・制度と合計特殊出生率



結論

＜乳児出生率が高い国＞
医療のレベルに関係なく、子どもを産みたいと思う人が多い

＜日本が乳児出生率＞
妊娠や育児の両立支援し、その支援を維持して、生める環境を作る

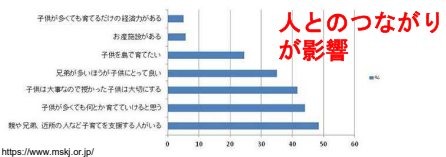
日本では

- 〈鹿児島県〉
 - ・保育、教育施設を点在
 - ・ひとり親家庭や乳幼児等の医療費助成が手厚い
 - ・子育て支援金の支給
(第1子5万円、第2子10万円、第3子以降15万円が支給)
- 〈長崎県〉
 - ・市内には産婦人科医が少ないため、妊産婦が周辺市町の産婦人科に通院するための交通費を助成

伊仙町(鹿児島県)の取り組み

- 平成21年1月 合計特殊出生率 2.42 で全国 1位
- ↓
- 平成18年 子育て支援金として、第3子以上出産した方に10万円を支給
- 平成21年 子育て支援金を拡充し、第1子に5万円・第2子に10万円・第3子以上は15万円を支給
- 平成22年 不妊治療の旅費助成 など

合計特殊出生率が高いのは、行政の取り組み以前から。
合計特殊出生率が高い理由は？ 子どくさんの理由は？
伊仙町の子育て世代を中心に聞いた子どくさんの理由



まとめ

産みたい・育てたいと思う人が、
「心配や不安」ではなく
「安心」して子どもを生んで、
育てられるような社会になるべき。